

市川自然博物館

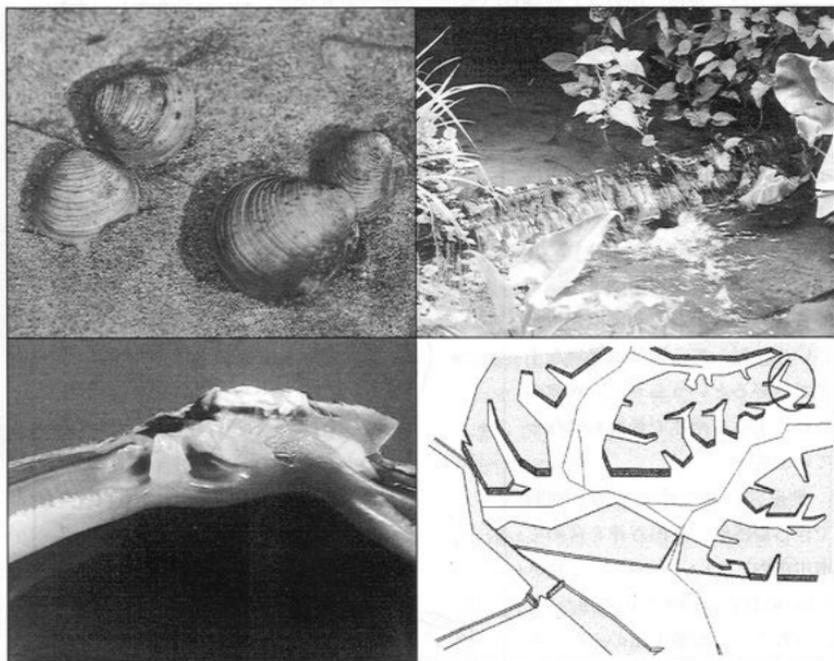
4-5月号

（通巻85号）

だより



自然博物館のめ



マシジミ

左上：砂にもぐっていたのを掘り出した。
左下：殻のかみ合わせ部分（歯）

右上：マシジミが暮らす湧き水の流れ
右下：市内での生息地

今年度の特集は、長田谷津総合調査の内容を紹介してゆきます。

第1回は『市内の谷津』についてです。

長田谷津 I 『市内の谷津』

総合調査報告

長田谷津とは、大町自然観察園を含む谷津のかつての呼称で、市川市内で唯一、谷津本来の環境があり、そこに多様な生物が生息している場所です。自然博物館では1999年度より、長田谷津の環境や生物についての総合調査を行ってきました。今年度の特集では、その調査結果について分野ごとに紹介してゆきます。

●市内の谷津

谷津とは、台地に切り込んだ細長い谷のことで、湧水によって潤される谷底の湿地と、谷を縁取るようにある斜面の林とが組み合わさってできている場所です。「谷戸」と呼ばれる場所も良く似た地形です。市川は国道14号線を境にして、北部に台地、南部に低地が広がっています。このために同じ市川市内でも、たくさんの谷津がある北部は起伏が多いのに対して、南部は平坦な土地が広がるというふうに、谷津の存在によって南北で景観も異なっています。

地形図から谷津の地形と判断できる場所は、長田谷津を含めて市川市内に23ヶ所あります。長さ数km、幅数百mの大きい谷津から、長さ数百m、幅数十mの小さい谷津まで大小様々です。ほとんどの谷津が、大柏川と国分川が造った谷に向けて入口が開いています。大柏谷と国分谷を幹谷と考えると

谷津はそれらの谷の枝谷にあたり、それぞれの川の上流になります。



△市内の谷津の分布
矢印は谷津の入り口を指し示す。
*のついている谷津が長田谷津

●谷津の調査

地図上では分かる谷津ですが、それでは現在どのような状況であるかを知るために、長田谷津を除く22ヶ所について、実際に現地に行って確認する調査を行いました。

調査は、谷底と斜面に分けて、それぞれどのような利用がされているかを、おもに以下のような観点で見に行ってきました。

- ・土地が改変されてない谷津本来の利用…湿地、林
- ・土地が改変されているが土の地面が多い…田んぼ、畑、公園など
- ・土の地面より建物などの割合が大きい…住宅地など

今回の調査は、現状確認が一番の目的なので、大雑把に林が多いか住宅が多いかなど、目視で判断してゆきました。その他、湧水が見られるか、谷津らしい景観が残っているかなども随時見ていきました。また、一つの谷津の中でも、上部と中部、下部で著しく異なった利用をされている場合は、分けて記録しました。



△住宅が斜面ぎりぎりにまで迫る。
左側の林は緑地として残されている。
(若宮3丁目 2000.3.17撮影)

●市内の谷津の現状

22ヶ所の谷津のうち、谷底にわずかでも湿地がある場所は、わずかに4ヶ所だけでした。これらの湿地は、一面ヨシ原になっていて、水辺らしい景観ではありませんでした。その他の場所は、湿地を埋め立てて、畑になっている場所もありますが、ほとんどの場所では、住宅がびっしりと建ち並んでいました。

これに対して、斜面についてはほとんどの場所が、林でした。ただし林とはいっても、斜面裾も台地上も住宅が迫り、斜面の部分に細長く幅の狭い林が残されているだけでした。これらの林は、傾斜が急なうえに下草にアズマネザサなどが密生しているので、林に入って楽しむことはできません。

つまり、市内のほとんどの谷津では、谷底は湿地を埋め立てた上に住宅が建てられ、斜面には幅の狭い林が、所々途切れながら残されている、というのが現状です。



△南大野の町から武蔵野線市川大野駅の方を望む。谷底は住宅で埋まり、斜面に林が見られる典型的な例。(2000.2.29撮影)

●谷津らしさを残す場所

長田谷津以外には、市内には本来の谷津は無いように思われますが、谷津らしさを残した場所は何ヶ所あります。

大野町4丁目にある谷津の最奥部は、幅の狭い馬蹄形のわずかな湿地が、こんもりとした斜面の木々に囲まれた、昼でも薄暗い場所です。ここでは台地裾からしみだして始まる、川の源流の雰囲気を感じます。ただし、その場所に行くには道がないために、気軽に訪れることはできません。

大野町2丁目の谷津、通称うしろ谷津は、下部は住宅地になっており、一部は斜面にも住宅が建っています。中央付近に調節池があり、そこから奥は、工場があったり盛り土された草地になっていたりしています。連続した斜面林はよく残り、谷津らしい風景が今もかろうじて残っています。斜面の裾に沿って道があるので、植物を楽しみながら散策することもできます。ただし、湿地はほとんど埋め立てられていて、機能していません。



△谷底は乾燥化が進んでいるが、斜面裾には湧水の流れが残っている。
(大野町4丁目 2000.2.29撮影)

●長田谷津の貴重性

長田谷津が市内の他の谷津より優れている点としては、斜面と谷底がともに開発されずに残されたということが、まず挙げられます。しかし、それだけではありません。たとえば湧水については、1年を通して枯れることなく、湿地を潤すだけの量が必要です。谷津だけでなく一帯の台地上も梨畑などの土の地面であるために、雨水がきちんと地面にしみ込んで地下水が確保されているのです。周辺一帯も含めて、谷津の機能がきちんと働くための要素が広域的に維持されているわけです。

また、視点を変えて、都市に残された谷津としての使命を考えると、利用も重要です。そのためには、ある程度人が谷津に近づけるような、道の整備も必要です。長田谷津は、自然観察園として園路が整備されているので、特別な身支度の必要はなく、また、湿地にあまり影響を与えずに、湿地を歩くことができます。

もちろん、長田谷津も良い点ばかりではありません。長田谷津は、市営霊園の正門西側から始まる長さが2km近い大きな谷津です。そのうち自然が残されているのは、自然観察園のある奥の部分だけです。その湿地も、ある程度手を入れて管理しないと、一面のヨシ原となり、次第に乾燥が進み、湿地として機能しなくなります。斜面林も同じです。

北総地域の谷津が、本来どのような姿をしていたか、またこれからの利用の仕方なども考えながら、市川に唯一残された谷津の将来図を描いてゆく必要があります。



街かど自然探訪

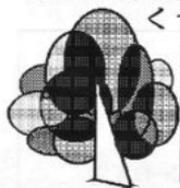
おじゃます!

いりふね

入船・東浜公園

公園にはだいたい大きな木が1, 2本植えてあり、それをシンボルツリーと呼んでいます。東浜公園のシンボルツリーはメタセコイアで、大きな木が2本並んで植えてあります。

メタセコイアは、樹高が25m以上に大きな木ですが、樹形は自然に二等辺三角形の美しい姿になります。春の芽出しや夏の青葉が茂る姿、赤茶色の紅葉、落葉して枝だけになった姿など、四季をとおして楽しめます



くすのきのあるバス通りから No.29

たくましい笹

近所の知人宅へ行く途中、見つけました。笹が、コンクリート敷きの駐車場の支柱の先端から葉を茂らせていました。笹だから、この様な姿になったのでしょうか。草や木なら『光が欲しい…』と途中で枯れてしまったのかもしれませんが。

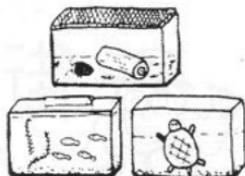
隣の家の庭には、おおもとの笹が生えていました。そこから地下茎を伸ばし、運良く支柱のところに伸びた地下茎から、地上へと出てきたものようです。

(水垣麻理子さん)



博物館で

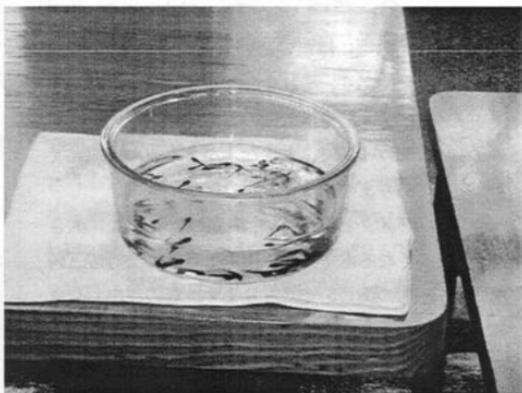
こんないきもの飼っています！



おたまじゃくし

春の人気者です。アニメにも登場し、知名度は高いのですが、最近はお目にかかることはほとんど無い様で、大人も子供も興味津々です。たらいのような水面の広いガラス水槽で飼っています。

太さが爪楊枝ぐらいで、長さが1cmぐらいの棒状の餌もやっています。餌はつつかれるとすぐ動いてしまうのですが、何匹もが同時に食べに集まるので、いつもふらふらしています。おたまじゃくしが集まって、餌を統率の悪いお神輿みたいに運んでいるように見えます。



△ニホンアカガエルのおたまじゃくし

こんなふうに飼っています

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

- ・ほうれん草 … たくさんになるくらい柔らかく茹でる。ラップに一枚ずつ平らに広げて冷凍にする。必要な量だけ割って使えて便利。
- ・たんぱく質の餌… 煮干や鰹節は水が汚れやすいので、金魚や亀の餌の方が楽。

※ ※ ※ 水換え ※ ※ ※

- ・水 … 1日汲み置きしたもの。水深は5センチぐらい。目の細かい網にざっとあけて換える。できれば毎日。
- ・卵で探ってきた時は…ゼラチン質と、中が白く濁った卵は孵らないので取り除く。

※ ※ ※ その他 ※ ※ ※

- ・容器…たらいのような口の広いもの。透明だと横からも見れて楽しい。エアレーションは無くても、たいてい大丈夫。
- ・置く場所は…陽の直接あたらないような場所。

わたしの
観察
ノート
No. 67

◆大町公園より

- ・カシラダカを見ました(1/6)。湿地の草が霜で覆われてしまったので草の上で餌を探していました。アオジやホオジロなど、ふだん草の陰にいる鳥たちも、全身がじっくり見えました。
- ・ミソサザイを見ました(1/20)。斜面裾の水路でウグイスの声かな?と思ったらミソサザイでした。

金子謙一(自然博物館)

- ・ニホンアカガエルが産卵をしていました(1/20)。19日夜の雨をきっかけにして20日の夜に産んだようです。

阿部則雄(船橋市在住)

- ・ウグイスのさえずりを聞きました(2/21)。朝方は途切れがちだったさえずりも昼近くにはホーホケキョと聞こえるようになりました。
- ・ヒキガエルが産卵をしていました(2/23)。紐状の卵塊が2個ありました。周辺では、鳴き声も聞こえました。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆大野町4丁目付近より

- ・ウスバフユシヤクを見ました(1/7)。冬にだけ出現する蛾の仲間であつた大野神社近くの街灯に止まっていた。

清野元之(自然博物館)

◆柏井雑木林周辺より

- ・ノウサギを見ました(1/7)。林で越冬している虫を探していたら、ちょっと顔を見せて一目散に逃げていきました。

小川晃(自然博物館)

◆堀之内貝塚周辺より

- ・オオタカを見ました(1/18)。若鳥が林の中をいきなり飛びすぎていきました。カラスに追われてのことでした。

◆里見公園より

- ・キクイタダキを見ました(2/15)。4年ぶりのことです。
- ・イカルを見ました(2/16)。大きなエノキにとまって実を食べていました。

◆小塚山公園より

- ・アトリを見ました(1/5)。サワラの種子を盛んに食べていました。
- ・ヤマシギを見ました(1/19)。

◆国府台江戸川河川敷周辺より

- ・ベニマシコを見ました(1/5)。アシ原にとまっていた。市内では7年ぶり2度目の観察です。
- ・ハヤブサを見ました(1/25)。獲物を脚につかんだまま、上空を北に飛び去っていきました。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◎とても寒い日と暖かい日が周期的にありましたが、季節の推移は順調でした。



行事案内



観 察 会

申し込みが必要な行事です。

〇じっくり観察会… 大人向けの内容ですが、親子でもご参加ください。定員：先着 20 名
〇いきもの観察会… 親子向けの内容で、いきものの採取なども行います。小さなお子様連れの方や、大人の方だけでもどうぞご参加ください。定員：先着親子 10 組

	テ ー マ	日 時	場 所	受付開始日
じっくり観察会	ハチをじっくり見る	5月11日(日)午前	長田谷津	4月21日～
いきもの観察会	ヤゴやザリガニ	6月15日(日)午前	長田谷津	5月24日～

〒申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません。

*時間 午前 10 時～11 時 30 分

*集合場所などについては、博物館までお問い合わせください。

テ ー マ	日 ち	場 所
青葉茂る谷津	5月18日(日)	長田谷津
トビハゼの季節	6月22日(日)	江戸川放水路



親子で徳行・毎月の江戸川放水路

お申し込みの必要はありません

江戸川放水路に毎月行って、季節の生き物を観察します。

*日 時 6月26日④ (6月から11月の第4土曜日の午前中)

*集 合 妙典公園 午前 10 時集合 約 1 時間半～2 時間

*集合場所、持ち物など詳しくは博物館に直接お訊ねください。

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

- ・日 時 5月25日④、6月29日④、午前 10 時～12 時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをしていただきませんか。

- ・日 時 5月4日④、6月8日④
午前 10 時～12 時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は
…まずは博物館にお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
第15巻 第1号 (通巻第85号)
発行日/平成 15 年 4 月 1 日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町 284 番地
☎047 (339) 0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>